

単元構造図 3年生「状況の中で」(全8時間)

**【第3学年C「読むこと」領域
(考えの形成・共有)】**
 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

【本単元の重点指導事項◎・関連指導事項○】
 ◎文章に描かれた社会と人の生き方から、人間・社会の在り方について自分の考えをもつ能力(C-エ「考えの形成」)
 ○作品に描かれた背景を踏まえて、登場人物の心情や、描かれた生き方を読み取る能力(C-イ「解釈」)

【本単元で身に付けたい資質・能力の系統】
 1年:文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かにする能力。
 2年:文章を読んで理解したことや考えたことを知識や体験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする能力。
 高校:文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えたりする能力。

【重点指導事項「考えの形成、共有」における子どもの実態】
 これまでの学習が「文章の解釈」に傾倒しがちであったことに起因し、半数程度の子どもは「自分の考えの形成」について弱さが見られる。対して、考えを形成した際には、その思考が外(社会生活)に向くものと内に向くもの(自身の生き方)とがあり、全体として前者の傾向がやや強い実態がある。

【単元を貫く言語活動】
 文章に描かれた人物の生き方について「どうあるべきか」を考え、話し合う。

【単元を貫く課題】
 置かれた状況の中で、人はいかに生きるべきなのであろうか。

【本単元で働かせる「言葉による見方・考え方」】
 文章から読み取ったことを基に、社会生活についての意見をもととする「見方・考え方」

■登場人物の思いや生き方を読み深める。

【ねらい】 第6時
 最初に出てきた「希望」と「思うに希望とは…」の「希望」とは意味が異なることに気が付き「大切なのは、自分の道は自分で切り拓こうと行動すること、そうした有志が多く集まって道をつくっていく」という、物語の主題を読み取ることができる。
【評価規準】
 「手製の偶像」「希望」の意味をとらえ、「願いを行動に移すこと、それが集まって状況を切り拓く道をつくっていくこと」という物語の主題を読み取っている。(C-イ)

【ねらい】 第3・4時
 再会したヤンおばさんとルトウの姿から、両者の思いや生き方を読み取ると共に、ヤンおばさんやルトウと再会した時の「私」の思いを読み取ることができる。
【評価規準】
 状況が苦しくなったことで、周りのせいにして、不満をぶつけたりするヤンおばさんや、打ちひしがれて卑屈になってしまったルトウの生き方を読み取っている。(C-イ)

■学ぶ目的と必然をもつ。

【ねらい】 第1時
 「西日本豪雨」の被災者が、復興の支援が滞っている状況に苦しんでいることについて考えを述べ合うことを通して、「置かれた社会状況の中で人はいかに生きるべきか」について考えを深めていくという単元の見通しをもつことができる。
【評価規準】
 「置かれた社会状況の中で人はいかに生きるべきか」ということについて単元を通して考えていこうとしている。(C-ア)

【ねらい】 第2時
 「故郷」を通読し、その描かれた社会背景を踏まえた上で、読み深める視点をもつことができる。
【評価規準】
 人物のどんな言動や生き方について読み深めていきたいか、具体的な場面や表現を挙げ交流している。(C-ア)

■読み取ったことを基に、考えを形成する。

【ねらい】 第7時
 西日本豪雨で被災した人の思いを記した資料を題材に、「望まぬ状況に置かれたとき、どう生きていくのか」を、これまでに学習した「握手」「蝉の声」で学んだことも踏まえて話し合うことを通して、「故郷」の主題に対して自分の意見をもつことができる。
【評価規準】
 「置かれた状況の中で人はどのように生きていくか」について、魯迅の考え方に対して、自分の意見をもっている。(C-エ)

【ねらい】 第5時
 「旦那様!……」と発言するルトウや、そんなルトウの発言を受け入れるしかない「私」の生き方に対して、自分の立場を明らかにして意見をもつことができる。
【評価規準】
 「旦那様!……」と発言するルトウや、そんなルトウの発言を受け入れるしかない「私」の生き方について、立場を明らかにして意見をもっている。(C-エ)

■学んだことを日常生活へと結び付ける。

【ねらい】 第8時
 様々な現在の日本社会の状況・社会問題について、その中に生きる「個」として何を考えるべきか、どう生きていくべきか、自分の意見をもつことができる。
【評価規準】
 挙げられた事柄から題材を選び、「その状況の中でどう生きるべきか」について、具体的な意見をもっている。(C-エ)

【単元末の子どもの意識】

社会というのは、いろんな考え方をもった人たちの集まりだから、全員が現状に満足して、納得できる社会というのはないと思う。一人一人についても、「納得できる部分」と「不満に思う部分」と両方あるのが普通だと思う。その不満に思うことを、ただどうしようもないと受け入れて我慢だけしては、「故郷」のルトウのようになってしまったり、「社会が悪いんだ」と不満だけ言っていたら、ヤンおばさんのようになってしまったり。だから、そういう社会を創る一員として、声を上げたり行動したりしていくことが大事だ。

【導入時における子どもの意識】

自分がどのような社会状況に置かれて生きるかは、選ぶことはできない。今の日本にも、様々な社会状況に不満を抱いたり、苦しんでいる人がいることがわかった。これから社会に出ていく私たちも、そうした状況に直面したとき、どのように生きていくべきなのか、「故郷」の作品を通して考えていきたい。

【本単元で身に付けたい資質・能力】

<個別の知識や技能>

既習の言葉を駆使し、自分の意見を明確に表現する能力。

<思考力・判断力・表現力等>

文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて自分の意見をもつ能力。

<学びに向かう力、人間性等>

自分の考えを、根拠を明確にして伝え合おうとする態度。